

市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための演習教材の作成と検証 その2  
市町村単位での集合研修の試行

研究分担者 牛尾 裕子 山口大学大学院医学系研究科 教授

**研究要旨：**

市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上のための教育教材をもちいた研修プログラムを適用し、保健師とともに研修の企画・実施を検討し、一部試行し、プロセス評価を行うことにより、教材及びプログラムの活用に資する資料を得ることを目的とした。

県内市町保健師管理者対象の集合研修において、本研究の目的や方法を説明し、協力の申し出があった自治体の保健師に、本プログラムを用いた研修企画に対する意見を聴取した。また自治体側の意向に応じて、教材とプログラム例を活用し、企画担当保健師と共に研修の企画し試行した。

市町村単位で市町村保健師の災害研修が必要とされる背景には、災害時の保健活動体制整備や災害時保健師活動マニュアル作成において、災害の直接的経験がない自治体で、保健師内や庁内他部署と、災害時保健師活動の実際について共通認識を図る意図がみられた。本教材とプログラムの活用マニュアルは、市町村単位で市町村の研修企画担当保健師が自立的に研修を企画実施評価することを容易にすることを確認した。一方で、災害経験がない場合において、企画支援や研修の助言等の役割として外部者のサポートが必要であり、保健所保健師や地元大学あるいは職能団体が研修企画サポートの資源として考えられた。

**研究協力者**

磯村 聡子 山口県宇部健康福祉センター精神・  
難病班 主任

研修実施意向を示した市の研修企画担当保健師とともに、当該市の状況に合わせた研修を企画し、一部試行した。研修終了後、研修プログラムについて、保健師自身の課題との関連付けや満足感、プログラムへの意見などについて調査した。またこの研修を保健師が自立して企画するために何がかなどについても意見聴取した。

本研究は研究代表者の所属大学である自治医科大学看護学部の研究倫理審査を受け、承認を得て実施した。

**A. 研究目的**

市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上のための教育教材をもちいた研修プログラムを適用し、保健師とともに研修の企画・実施を検討し、一部試行した。このプロセスを記述し、プロセス評価を行うことにより、教材及びプログラムの活用に資する資料を得ることを目的とする。本報告では、災害対応にかかわる保健師の人材育成及び体制整備の必要に迫られた市において、一自治体の全保健師対象の研修を行う場合についての示唆を明らかにする。

**B. 研究方法**

**1 本プログラムを用いた研修企画に対する市町村保健師への意見聴取**

前年度作成した教材と研修プログラムのねらいと内容を説明し、これの活用に対する市保健師側のニーズについて意見聴取した。

**2 研修の企画と試行**

**C. 研究結果**

**1. 本プログラムを用いた研修企画に対する市保健師への事前意見聴取**

県内市町保健師管理者対象の集合研修において、本研究の目的や方法を説明し、協力の申し出を得たところ、2自治体より申し出があった。教材と研修プログラムのねらいと作成過程を説明し、自治体側の研修への要望内容などを聴取した。2自治体のうちB市は研修企画担当保健師と共に本プログラムをもとに研修を企画し試行した。意見聴取対象及び結果は表1及び2に示す。

表1 市保健師へのヒアリングの実施

	A市 人口約 32,000 人 (ヒアリングのみ)	B市 人口約 130,000 人 (研修の企画・試行)
日程	2022年1月28日	2021年11月15日 2021年12月17日
協力者	保健・高齢福祉・地域福祉各部門補佐級保健師等 計4名	統括保健師、保健・児童福祉部門等次期リーダー的立場の保健師 計5名

市町村レベルで研修が求められる背景には、災害対応において部門を横断し保健師組織一体となる体制構築の必要性の認識、庁内における災害対応体制見直しの動きがあった。保健師や自治体の準備状況としては、災害対応経験の不足から、計画が作成されていても運用が可能か危惧する状況があった。

本教材とプログラムに対しては、市保健師が災害に対する体制を整備したり庁内で合意形成を図るきっかけに活用可能との意見が聞かれた。

## 2 研修の企画と試行

B市では、教材とプログラムをもとに、研修企画担当保健師と研修を企画し試行した。

### 1) 研修ニーズのアセスメント

災害対応経験のない保健師が大半で、保健師の健康危機管理能力の自己評価が低いこと、庁内で災害対応における「保健活動班」設置の動きがあり、保健師の役割を保健師自身及び他部署の間で明確にする必要があることをニーズとして確認した。

### 2) 目標の設定

研修ニーズアセスメントに基づき、以下のように演習のねらいを設定した。

①災害を自分事として捉え、災害が起こった場合に対応できる保健師としての心構えと準備状況をつくる。

②市の災害対応の課題を見出し、災害対策の体制や保健師活動マニュアル作成の参考とする。

### 3) プログラムの検討 (表3)

「実務保健師の災害時のコンピテンシーリスト」のフェーズ0～1より、演習で焦点をあてるコンピテンシーを選定した。教材とプログラムのモデル例をもとに、演習で取り組む状況・場面と課題は、B市の現状や課題を反映するよう改訂し

た。登場する保健師の立場や出務の状況など過去の災害経験をもとに作成した。しかし実際災害を経験していない保健師が演習の状況設定を具体化することが困難でサポートが必要であった。

また庁内の関係課や防災部門と、災害時の保健師の動きや役割について共通認識を図りたいという保健師側の要望を受けて検討した結果、保健師対象の研修とは別に、災害に対する保健師の活動の実際や保健師の災害時対応体制の在り方や、連携の重要性などについて、eラーニング教材から一部抜粋して説明する機会を設定した。

## 4) 研修の実施

市全保健師が受講できるように2回に分けて同じ内容を実施する計画を立てたが、COVID-19感染拡大により、延期となり、年内に1回のみ開催し、17名が受講した。17名の内訳は、保健師経験年数5年以下2名、6～19年4名、20年以上11名であった。災害支援経験を有する者は17名中2名であった。研修の概要は説明用スライドを参照(資料)。

17名のプログラムに対する評価結果は図のとおりである。①研修目的目標が明確であったか、②自信がついたか、③すぐに役立ちそうか、④受講してよかったか、⑤自分に関係があったか、⑥やりがいがあったかについて、5を「大変そう思う」として5段階で聞いた。②の自信が獲得できたかをのぞき、①目的目標の明確さ、③役立ちそう、④受講満足、⑤自分に関係、⑥やりがいについて、7割以上が4点以上の評価であった。しかし②自信が獲得できたかについては、どちらでもない者が6割程度であった。プログラムへの意見は表4にまとめた。

## 5) 教材の活用マニュアルへの意見

教材活用マニュアル案をみてもらい、自立して研修が企画できるかどうかについて問うた。

「自立して企画運営はできそう」だが、一方で困難な点として、「グループワークに対して指導者の助言が必要であり、企画担当保健師等がこれを担うのは難しい」「実務家保健師の災害コンピテンシーとeラーニングとの関連付けが分かりにくい」「災害経験のない者にとって、イメージを共有できるような動画教材がほしい」との意見が述べられた。

## D. 考察

### 1 市町村単位で保健師の災害研修が必要とされる状況

市町村保健師の災害時保健活動の研修は、都道府県や職能団体、保健所が市町村保健師を対象に研修を企画する場合が主に想定される。一方「実務保健師の災害時対応能力育成のための研修ガイドライン（以下ガイドライン）」では、ガイドライン活用方法のひとつに、「自治体において実務保健師を対象に、災害時の研修を行う意義や必要性の根拠を明確にし、保健師の人材育成計画、又は自治体内での災害対応訓練との関連で位置づけを図るために活用する」があげられた。本報告では、市町村レベルで、保健師対象の災害研修を必要とする状況が明らかになった。

近年災害が各地で多発する状況から、市町村単位で災害時の保健師活動体制を整備する必要性に迫られているが、当該自治体に直接的災害経験がない場合、保健師間や庁内他部署との間で、災害時の保健師活動の実際について共通認識を持ち、マニュアル作りや体制整備に取り組むきっかけとしての研修が求められていた。本研究班が作成した教材と研修プログラムは、このための研修にも役立つことを確認した。

### 2 市町村単位で保健師の災害研修を企画実施評価するための教材・プログラム活用マニュアルの有用性と課題

教材とプログラム例を活用し、ガイドラインに沿うことで研修の企画をスムーズに進めることができた。一方演習の状況・場面と課題の設定において自治体の現状を反映させるうえでは、企画担当保健師が災害経験がない場合に、サポートが必要であった。またグループワークに対するフィードバックや助言などにおいても、同自治体の企画担当保健師とは別の立場からの助言を求める声があった。

災害経験のない自治体において、災害への活動体制整備やマニュアル作成の準備状況をつくるために研修を企画する場合には、災害時保健師活動について研修を受けているか、あるいは多少の災害対応経験のある保健師等が、研修の企画や実施をサポートすることが求められると考えられた。研修をサポートする立場としては、当該市町村を管轄する保健所保健師や地元大学あるいは職能団体が考えられた。

## E. 結論

市町村単位で市町村保健師の災害研修が必要とされる背景には、災害時の保健活動体制整備や災害時保健師活動マニュアル作成において、災害の直接的経験がない自治体で、保健師内や庁内他部署と、災害時保健師活動の実際について共通認識を図る意図がみられた。本教材とプログラムの活用マニュアルは、市町村単位で市町村の研修企画担当保健師が自律的に研修を企画実施評価することを容易にする。一方で、災害経験がない場合において、企画支援や研修の助言等の役割として外部者のサポートが必要であり、保健所保健師や地元大学あるいは職能団体が研修企画サポートの資源として考えられた。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

## 引用文献

・実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン（令和2年3月）：平成30年度令和元年度厚生労働科学研究「災害対策における地域保健推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証（研究代表者宮崎美砂子）」

表2 教材及びプログラムに対する市研修企画担当保健師へのヒアリング結果

A 市	B 市
<p>研修を必要とする背景</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時の保健師の保健活動マニュアル策定進行中。</li> <li>・県主催の研修によりマニュアル策定の機運が高まり、保健師分散配置のなか、災害対応は部門を横断し保健師組織一体となる体制が必要と考えた。</li> <li>・市内の防災部門と協議する前段階として、保健師組織内で検討し、保健師の保健活動マニュアル案を作成中。案をもって市内各関係課や防災部門と協議する予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内で災害時の「保健活動班」設置に向けた動きがある。災害時の保健師の活動について地域防災計画などに示されているものがないため、災害時に保健活動としてすべきことが何も決まっていない。市内の他部署にも保健師自身にも周知されていないので、研修がきっかけになるとよい。</li> <li>・本市でのラダーに基づく能力評価の結果、健康危機管理能力の自己評価が低いという結果であった。</li> </ul>
<p>保健師及び自治体の災害に対する準備状況</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会単位で要援護者個別避難計画を作成しているところもある。</li> <li>・避難所や福祉避難所開設運営のマニュアルは策定されているが災害発生時運用可能かについて危惧あり</li> <li>・職員自身が災害対応の経験がないのでイメージがもてない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数年前の市内で発生した水害対応において、指揮する本庁と支所の間の課題が浮き彫りになった。今年度の大雨でも支所に避難所が設置され、「これからグループホームの入居者が避難されるのでよろしく」と連絡が入ったが、実際に何をどうすればいいのかという状況があった。災害発生時の直接対応を担うのは支所で、ケースも支所が把握しているが、高齢福祉部門は本庁にあるので連携が課題。</li> <li>・保健活動の実行部隊として、災害時活動マニュアルを作成している。他自治体のマニュアルを参考に、本市バージョンを検討しているが、手探りでやっている。</li> </ul>
<p>教材を用いた研修プログラムについて</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習によって、イメージアップし、保健活動マニュアルを見直す視点がもてるようになるのでは。</li> <li>・既存の災害時保健活動推進マニュアルなどを見直し確認する機会にできる。</li> <li>・災害時保健活動マニュアル作成の前段階で取り組む研修としても活用できる。</li> <li>・保健師だけでなく、事務職など市内の他職員とともに動く体制が必要。保健師が所属する担当課と他課との連携も想定に追加できるとよい。</li> <li>・eラーニングの視聴方法について質問あり、興味関心が示された。</li> </ul>	<p>(研修プログラムを企画試行した)</p>

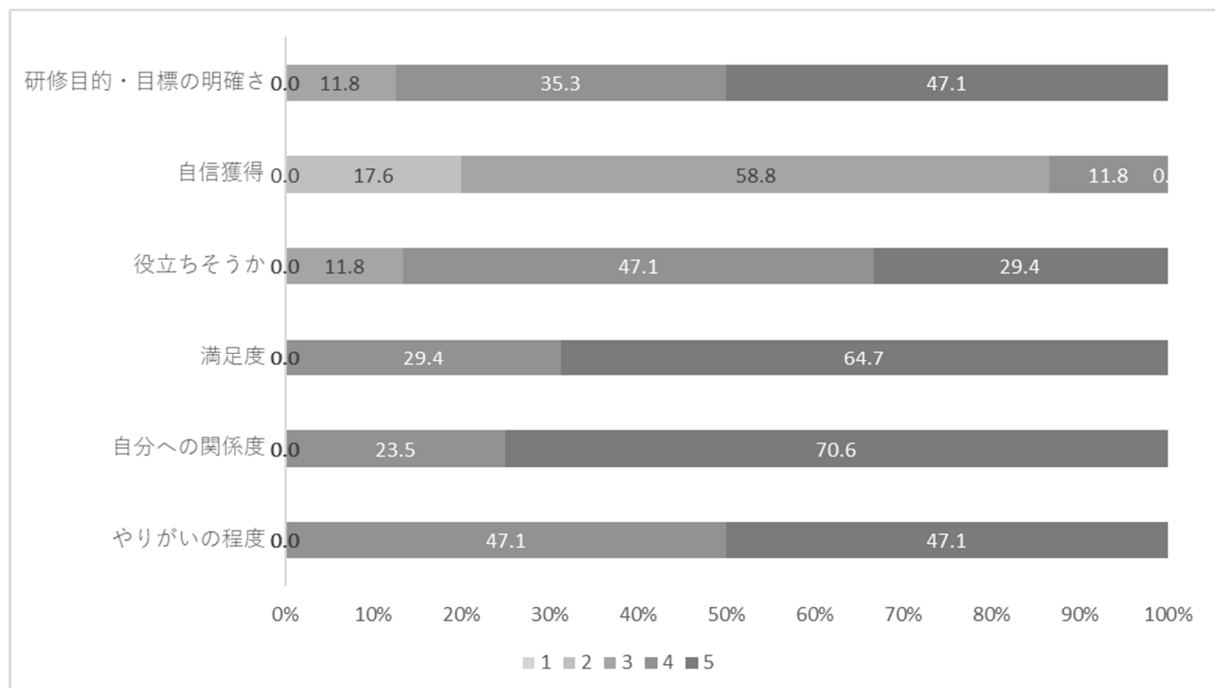
表3 演習の状況設定と課題についての研修企画担当保健師との検討ポイント

<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場する保健師の立場の設定 支所管内で水害が発生した設定だったので、本庁保健師と支所保健師を登場させた。</li> <li>・保健師の出務の想定確認 状況設定の時系列で実際どの立場の保健師がどこに出務することになるかを反映。</li> <li>・過去に経験した災害時の保健師の動きや課題の振り返り 避難所の状況設定と課題の設定へ反映</li> <li>・要配慮者・支援者への対応において福祉部門との連携が課題であることの確認 避難所で近隣のグループホームから避難することになる状況設定を追加</li> </ul>
--

表4 プログラムに対する意見

<p>次回配分や内容構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修時間にもう少し余裕があるとよい。</li> <li>・構成、時間配分は良かった。</li> <li>・保健師同士で話し合う機会となるところがとても意味のあることだと思った。</li> <li>・まずは具体的な場面をイメージし、自分ごとで考える演習をいくつも繰り返すことが大事だと思った。またその後、講評があることで、腑に落ちた。</li> <li>・演習+知識の組み合わせのプログラムが分かりやすかった。</li> </ul>
<p>災害に備える意識が高まった</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平時から災害を想定し、業務の優先順位や、人脈、地域資源とのつながり、庁内各課の動向を理解しておく必要があると再認識できた。</li> <li>・演習で、これまでどこか自分事として考えられていなかった災害支援を具体的にイメージするきっかけになった。少し不満は生じたが、まずはできるところから準備したい。</li> <li>・災害対応に特化した研修は初めてで、改めて、今、自分が災害時対応に従事することになれば何もできないと感じた。日頃から災害に対する意識を高めていきたい。</li> <li>・災害が起きた際に、どのような活動をしていけば良いのか理解できておらず、漠然とした不安があるような状態だった。今回の講義を受講し、どのような視点を持って活動していくべきなのか、全体を見ることの大切さを理解できた。これをきっかけに平時から災害が起きた時のことをイメージして知識を深めておきたい。</li> <li>・こういった場を毎年もっていく必要があると思った。</li> <li>・自分に足りない能力が明確にできた。</li> <li>・平時から意識して保健活動を行っていないと有事には行動できない。定期的な研修は必要。</li> </ul>
<p>eラーニングについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつでもどこでも視聴可能なので個人の時間をとりやすい</li> <li>・演習の後にeラーニングを見ると頭に入りやすかった。</li> </ul>
<p>プログラムの課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害活動の経験が今までに無いため、イメージが沸きにくかった。動画など場面がイメージできる教材があると分かりやすい。</li> <li>・用語が難しすぎて理解できない所があった。</li> </ul>

図 プログラム評価



1 そう思わない 5 大変そう思う



# 市町実務保健師の 災害時保健活動遂行能力 の向上のための研修

令和4年3月7日（月）8:45～12:00

## 本日のタイムスケジュール

8:45～	挨拶・オリエンテーション
8:50～	市町の災害時保健活動の重要性と基本的事項 演習の目的・進め方説明
9:10～	演習課題1・2 個人ワーク・グループワーク・共有
9:50～9:55	休憩
9:55～	eラーニング視聴「避難所における迅速アセスメント」(18分)
10:15～	演習課題3・4 個人ワーク・グループワーク・共有
10:55～	eラーニング視聴「避難所における保健活動の基本②」(15分)
11:10～	リフレクション及び今後に向けたアクションプラン
11:50～	まとめ、今後の災害時保健活動体制、取組みの方向性

12時過ぎ 終了予定

## 研修のねらい

B市で起こりうる風水害災害を想定した事例を用いて、現場に出向く保健師に焦点をあてた保健活動を考える。

①災害を自分事として捉え、災害が起こった場合に対応できる保健師としての心構えと準備状況をつくる。

②市の災害対応の課題を見出し、災害対策の体制や保健師活動マニュアル作成の参考とする。

③災害対策における他部署他部局との連携調整に役立てる。

## 本研修の背景

### 阪神淡路大震災以降の主な災害等と保健師関連事項

年	災害等	関連事項
1995(H7)	阪神淡路大震災 地下鉄サリン事件	
1996(H8)	堺市O157 集団食中毒	災害時における保健師活動のマニュアル(全国保健師長会)
1998(H10)		日本災害看護学会設立
1999(H11)	東海村放射能施設事故	
2000(H12)	有珠山噴火 三宅島噴火	
2001(H13)		地域健康危機管理ガイドライン(厚生労働省)

年	災害等	関連事項
2004(H16)	豪雨・台風災害が多発 新潟県中越地震	
2006(H18)		災害時要援護者の避難支援ガイドライン(内閣府)2013(h25)災害対策基本法で避難行動要支援者名簿)の作成を義務付け 大規模災害における保健師の活動マニュアル(全国保健師長会)
2009(H21)		世界災害看護学会設立 看護師カリキュラムの統合分野に災害看護が導入
2011(H23)	東日本大震災	
2013(H25)		大規模災害における保健師の活動マニュアル改正(全国保健師長会)
2016(H28)	熊本地震	
2018(H30)	7月西日本豪雨災害	
2019(R1)		災害時の保健活動推進マニュアル(全国保健師長会)
2020(R2)	7月豪雨(熊本県)	(コロナ禍での豪雨災害)

大規模災害における保健師の活動マニュアル  
平成25年 全国保健師長会 日本公衆衛生協会



改訂ポイント  
 平常時に自治体が行うべき公衆衛生看護活動を明示  
 現任教育との連続性確保  
 介護サービス・福祉サービスとの連携加筆  
 復興支援後期を追加  
 帳票類見直し統一  
 大都市災害加筆

[http://www.jppha.or.jp/sub/pdf/menu04\\_2\\_h25\\_01.pdf](http://www.jppha.or.jp/sub/pdf/menu04_2_h25_01.pdf)

7

災害時の保健活動推進マニュアル  
全国保健師長会 令和2年3月



本マニュアルの体系  
 災害対策基本法、災害救助法、厚生労働省防災業務計画・各種通知・ガイドラインを反映

本マニュアルの特徴  
 大規模地震に加え風水害を想定  
 都道府県、保健所、市町村それぞれの役割を整理  
 支援の業務とその準備を記載

[http://www.nacphn.jp/02/saigai/pdf/manual\\_2019.pdf](http://www.nacphn.jp/02/saigai/pdf/manual_2019.pdf)

8

市町の災害時保健活動の重要性と基本的事項



<https://dphn-training.online/moodle/?redirect=0>

演習のねらい

①災害を自分事として捉え、災害が起こった場合に対応できる保健師としての心構えと準備状況をつくる。

②市の災害対応の課題を見出し、災害対策の体制や保健師活動マニュアル作成の参考とする。

演習と対応する  
災害時のコンピテンシー

I-1 被災者への応急対応

- (1) 被災者・避難者の中から重症傷病者等の救急医療の必要な人、持続的な医療ケアが必要な人、配慮の必要な人を特定し、緊急搬送、福祉避難所への移送、別室等での対応を行う。また、緊急ではない医療者の手当、要配慮者への継続的な見守りを行う。
- (2) 避難者の健康観察、避難環境の整備により、二次的な健康被害の発生を予防する。
- (3) 必要な応援内容と人員を判断し、指揮を担当する保健師へ報告する。

I-4 被災地支援のアセスメントと支援ニーズの明確化（迅速評価）

- (1) 避難所等巡回、関係者及び災害対策本部等からの情報を活用して、被災者のヘルスニーズの概要を迅速に把握し、優先度を高めて対応すべき地域の課題と対象を明確にする。
  - (1) 地域の現有資源による対応力を踏まえた時に受援が必要である課題及び対象を明確にする。
  - (2) 既に被災地で活動を開始している支援チームについて情報収集する。



## 演習の進め方

- 状況設定と討議して頂く課題を順番に示していきます。
- それぞれの課題について、はじめに個人で考え、その後グループ内で共有します。
- 提示された状況の設定された保健師の立場ならば、自分はどう判断し行動するかを考えてみてください。
- グループワークでは、進行係・記録係を決めてください。
- 進行係は、グループメンバー全員から発言が得られるよう配慮してすすめてください。
- 後から振り返ることができるよう、また発言を共有しながら討議を進められるよう、記録係は発言を記録してください。

課題に取り組みやすいよう、途中関連するeラーニング教材を視聴します。

## グループワークの留意点

- 自分自身の災害対応への準備状況や市や所属部署の災害対応がどのようになっているのかを振り返ることが最も重要なねらいです。
- 率直に感じたことや考えたことを共有しましょう。

## 災害想定

- あなたの立場 どちらかを選んでください。

X支所市民福祉課所属の5年目保健師A

本庁保健部門所属の15年目保健師B

## 災害想定

- あなたは、B市保健師5年目Aまたは15年目B。自宅はB市中心部にあります。
- 7月4日（金）から梅雨前線が九州北部地方に停滞。梅雨前線の南側では、南から暖かく湿った空気が流れ込み、長時間にわたり大気の状態が不安定となりX地区では、局地的に非常に激しい雨が降っています。
- これまで経験したことのないほどの甚大な被害が予測される状況です。

## 場面1 発災前

7月5日（土）1時50分

大雨洪水警報発令、第2警戒体制が配備された。今後も猛烈な雨が引き続く予定で、Z川氾濫も予測される。

自主避難所は各地に開設された。

今後、大雨が続く予報で、指揮をとる保健師から、自宅待機を指示された。

**待機となったあなたは発災に備えて何をしますか？**

- シンキングタイム 5分
- グループ内で共有 10分
- 発表・コメント 5分

## 【場面2】発災前からフェーズ0 7月6日（日）15時

- ・Z川氾濫の恐れが高まり、災害対策本部が配備された。Y地区の一部（578世帯 1336人）に「避難準備・高齢者等避難開始」が発令された。国道は渋滞し、県道は通行止めになっている箇所がある。
- ・15時30分、指揮を担当する保健師2名が、本庁保健部署に出務。
- ・災害対策本部より、指揮をとる保健師へ、避難所には避難者があふれており、発熱している人、咳をする人がいると連絡が入った。Y地区を流れるZ川の堤防決壊からの越水が報告され、ひざ下が濡れ、避難中の転倒により、けがをして出血している人もいるとのこと。新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所収容可能人数についての問い合わせもあった。

## 【場面2】発災前からフェーズ0 7月6日（日）16時

- ・指揮をとる保健師は、自宅待機していた保健師に、X地区に開設された指定避難所に向かうよう指示した。
- ・X地区では、X集会所、X高等学校、Y小学校3か所の避難所が開設されている。
- ・A保健師とB保健師は、X高等学校避難所に派遣されることとなった。

新型コロナウイルス感染症対策も踏まえた避難所運営のため、どのような準備をして避難所に向かいますか？

対応コンピテンシー I-1 (1) (3) (4)

## 休憩

- ・シンキングタイム 5分
- ・グループ内で共有 10分
- ・発表・コメント 5分

e ラーニング教材視聴  
「避難所における迅速アセスメント」(18分)

## 【場面3】フェーズ1 7月6日（日）18時

- ・A保健師とB保健師は、X高等学校避難所に到着した。
- ・避難所には避難者があふれており、あと20人で避難所収容可能人数になってしまう状況。
- ・乳幼児を連れた妊婦、持病の薬を持ってこなかったという高齢者がいる。精神疾患をもつ独居高齢者が不穏でウロウロしている。自治会長が避難してきた。
- ・避難者から、Y地区独居の人が避難所にいないと安否を心配する声が入った。また、自宅の隣は、脳梗塞後の半身不随の高齢者、数件先には、認知症が心配な独居高齢者がいるとの情報。人工透析患者も避難している。

この時点で収集すべき情報は何でしょうか  
そのうえでどのような体制を整えますか

対応コンピテンシー I-1 (1) (3)

## 【場面4】 フェーズ1 7月7日（月） 朝6時

- シンキングタイム 5分
- グループ内で共有 10分
- 発表・コメント 5分

- 雨は断続的に降り続けている。
- 近くのグループホームから、浸水の危険性が高まったため入居者がスタッフとともに避難してくるという情報が入った。入居者には、車いす利用者や認知症高齢者が含まれる。

### グループホームからの避難者を受け入れる準備をどのように進めますか

1-1 (3) (4)  
1-4 (10) (11) (12)

- シンキングタイム 5分
- グループ内で共有 10分
- 発表・コメント 5分

eラーニング教材視聴  
「避難所における保健活動の基本②」（15分）

### 振り返り（個人ワーク）8分

演習に取り組んでみて気づいたことを書き出しましょう。

平時からしておくべきことを書き出してみましょう。

具体的なアクションプランをあげましょう。

\*アクションプランには、1~2か月以内に実行可能なものを必ず1つは含めてください。

### 振り返り共有 15分

個人の振り返りから書き出したことを、グループ内で共有しましょう。

## 全体共有 17分

- 演習での気づき
- 平時から取り組むべきこと
- アクションプラン